

【第一回つばきの国俳句大賞】

2018年2月12日～18日、国重要文化財・萬翠荘で、伊予つばき協会主催による「第四十二回つばき名花展」が開かれた。今回初めて、「つばきの国俳句大賞」が創設され、「椿を題材とした俳句」が募集された。選者は、八木健、山口聰（伊予つばき協会支部長）、小泉和子（同理事）。副賞として、大賞と優秀賞三点の俳句を八木健がアートにして贈呈し、椿の苗木や、道後の入浴券のセットも贈られた。

大賞	引力にもぎとられたる落椿	堀川明子
優秀賞	落椿生きた証の汚れかな	桑田愛子
	潔く生きて散りたし白椿	郷田耀子
	紅椿余白なきまで散りしまく	源のぶ子

椿は、松山市の「市花」であることから「つばきの国俳句大賞」と命名させていただいた。今後も花展と伴に末永く開催、継続されるだろう。毎回、応募される作品は「文芸の創造」であり、作品群は必ずや後の世に残る。「つばきの国俳句大賞」の創設の意義は大きく、そのことに関わることができたことは喜びである。

